

機関番号：12614

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20300283

研究課題名（和文） メタバイオエシックスの構築に向けて一日米バイオエシックス成立過程の研究

研究課題名（英文） Development of Meta-Bioethics: Studies on the Origin of Bioethics in the United States and Its Introduction in Japan

研究代表者

小松 美彦 (KOMATSU YOSHIHIKO)

東京海洋大学・海洋科学部・教授

研究者番号：90266239

研究成果の概要（和文）：米国で誕生し日本に導入されたバイオエシックスの特性を検討した。すなわち、文明論、歴史、メタ科学、経済批判、生権力の視点が稀薄ないしは欠落していることを剔抉し、日本の生命倫理の改革の方向性を検討した。成果は共著『メタバイオエシックスの構築へ—生命倫理を問いなおす』（NTT 出版、2010）にまとめた。また、バイオエシックスが導入された 1970～80 年代の日本の科学・思想・宗教・政治状況を、文献輪読やオーラルヒストリー調査などを通じて考察した。以上は、国内外の研究にあって初の試みであり、書評やシンポジウムなどで高く評価された。

研究成果の概要（英文）：This research project examined the characteristics of bioethics as originated in the United States and later imported to Japan. As there has been a lack of perspective in regards to civilization theory, history, meta-sciences, criticism of economics, and bio-power in the field of bioethics, we explored possible reforms of bioethics from a Japanese perspective and for application in Japan. Outcomes of the research and discussions of this project were woven into the book, “For Development of Meta-Bioethics: Inquiring Bioethics Again,” NTT Press, 2010, co-authored by the project members. Also, through reading related literature and oral-history research, project members examined Japanese science, thought, religion and politics of the 1970s and 1980s when bioethics was first introduced into Japan. This approach was unprecedented at home and abroad and thus was highly reputed through book reviews and related conferences.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	5,400,000	1,620,000	7,020,000
2009 年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2010 年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
年度			
年度			
総計	13,400,000	4,020,000	17,420,000

研究分野:総合領域

科研費の分科・細目:科学社会学・科学技術史

キーワード:生命倫理学、医療倫理、科学論、思想史、国際研究者交流

1. 研究開始当初の背景

本研究は、文部科学省科学研究費補助金・萌芽研究「バイオエシックスの歴史的・メタ科学的研究—メタバイオエシックスの構築を目指して」

（代表研究者・東京海洋大学・小松美彦、2006～07 年度、課題番号 18650258）の発展研究として位置づけた。米国型のバイオエシックスを批判的・歴史的に検討し、また、米国からバイオエ

シックスを輸入した日本の科学的・思想的・宗教的・政治的土壌を広く検討した研究は、管見では見受けられなかった。

2. 研究の目的

米国のバイオエシックスに強い影響を受けているために諸々の問題を抱えている日本の生命倫理に換わる「メタバイオエシックス」の構築に向けて、米国のバイオエシックスの成立史と特徴に関する歴史的・メタ科学的な分析を深化させる。さらに、日本の生命倫理の成立史と特質を検討する。

3. 研究の方法

前記の萌芽研究に引きつづき、文献検討に加えて、バイオエシックスを対象化している米国の研究者に対して、オーラルヒストリー調査などを行った。また、バイオエシックスが米国から輸入される前史に当たる1970年代の日本の科学的・思想的・宗教的・政治的な状況と、80年代の実際の輸入のされ方を検討すべく、当時の日本の関係者へのオーラルヒストリー調査などを実施した。以上をもとに、3回の合宿を含む計16回の研究会や各自の研究などで、総合的に分析した。調査対象者は次の各氏である(調査順、肩書は当時)。

ウィリアム・ラフルーア(ペンシルバニア大学教授)

レイモンド・ドブリーズ(ミシガン大学教授)

今堀和友(東京大学名誉教授)

大林雅之(東洋英和女学院大学教授)

小川秀道(旭川医科大学名誉教授)

中村桂子(生命誌研究館館長)

信楽峻磨(龍谷大学名誉教授)

木村利人(恵泉女子大学学長)

松長有慶(真言宗座主)

中曾根康弘(元内閣総理大臣)

光石忠敬(日本弁護士連合会人権擁護委員)

ホアン・マシア(イエズス会司祭)

アンセルモ・マタイス(上智大学名誉教授)。

4. 研究成果

(1)米国のバイオエシックスに関しては、文明論、歴史、メタ科学、経済批判、生権力などの視点が稀薄か欠落していることを把握した。その上で、日本の生命倫理が改革すべき方向性を検討した。本研究は、国内外において初めてのものと思われるが、その成果は、研究会メンバーのうち9名で執筆した小松美彦・香川知晶編著『メタバイオエシックスの構築へー生命倫理を問いなおす』(NTT出版、2010年)にまとめた。

同書は、「週刊読書人」2010年6月4日(品川哲彦)、『科学』80巻10号(柘植あづみ)、『科学史研究』256号(額賀淑郎)等々で書評が出され、

いずれも高い評価を受けた。また、「週刊読書人」2010年12月24日の「2010年回顧 哲学」(貫成人)、および『みすず』590号の「2010年読書アンケート」(立岩真也)などで、年間の優れた研究として取り上げられた。さらに、時間は逆行するが、直接の批判を受けて討議すべく、合評会を行った(2010年4月25日)。評者は、大林雅之(東洋英和女学院大学教授)、加藤秀一(明治学院大学教授)、島蘭進(東京大学教授)、土屋貴志(大阪市立大学准教授)であり、ここでも批判を含めて積極的に評価された。

なお、同書の基盤をなす萌芽研究の「最終報告書」(基礎データを含む)は、次のサイトですべて見ることができる。

<http://www2.kaiyodai.ac.jp/~yoshik/index.html>

(2)日本へのバイオエシックスの導入とその土壌の研究については、文献とオーラルヒストリー調査などを通じて、科学・思想・宗教・政治にまつわるその複雑な構造を検討した。その暫定成果は、米国のバイオエシックスに関するものを含めて、以下のごとく2008年度～2010年度の日本生命倫理学会年次大会においてシンポジウムを組み、批判を仰いだ。いずれも高評価を得たと思われる。

2008年:「生命倫理の自己認識と可能性ーメタ・バイオエシックスの視点から」(オーガナイザー:香川知晶、発表者:廣野喜幸、的射場瑞樹、皆吉淳平)。

2009年:「生命倫理の歴史的現在ーメタ・バイオエシックスの視点から」(オーガナイザー:田中智彦、発表者:大谷いづみ、香川知晶、小松美彦)。

2010年:「「生命倫理の成立」再考ーオーラルヒストリー調査の結果から」((オーガナイザー:大谷いづみ、発表者:小松美彦、竹田扇、爪田一寿)。

本研究は、香川知晶・小松美彦編『生命倫理の源流ー1970ー80年代日本の生命科学・科学技術政策・倫理を問う(仮)』(2013年予定)として公開すべく、現在作業を進めている。なお、インタビューのデータベースを既に作成しているが、同書に収録する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計41件)

① 小松美彦「「倫理」は何処にあるのか」『文藝月光』2号(2010)、213-218、査読無(以下、「無」と略記)。

② OTANI, Izumi“‘Good Manner of Dying’ as a Normative Concept: Autocide, ‘Granny Damping,’ and Discussions on Euthanasia / Death with Dignity in Japan,” *International*

Journal of Japanese Sociology, 19, 2010, 49-63, 無.

- ③ 香川知晶「法による思考停止と生命倫理」『añjali(あんじゃり)』20号(2010)、2-5、無。
- ④ Yoshimura K., Kawate, T. and Takeda, S., “Signaling Via Primary Cilium Affects Glial Cell Survival Under the Stressed Environment,” *Glia*, 59, 2011, 333-344、査読有(以下、「有」と略記)。
- ⑤ 田中智彦「現代における〈死〉への覚書—脳死・臓器移植をめぐる「ノン・パンセ」」『哲学』61号(2010)、9-24、無。
- ⑥ 瓜田一寿「「脳死」・臓器移植問題をめぐって」『宗報』521号(2010)、38-41、無。
- ⑦ 土井健司「どうすれば貧者の苦があなたには見えるのか—飢饉におけるカイサレアのパンバシレイオスの救貧思想」『キリスト教史学』64号(2010)、148-171、有。
- ⑧ 廣野喜幸「超システム論再考—多田生命論の意味論」『現代思想』38巻9号(2010)、172-192、無。
- ⑨ 森本直子「アメリカにおけるDNA鑑定による誤判救済」『同志社アメリカ研究』47号(2011)、117-134、有。
- ⑩ 小松美彦「臓器移植法改定 A案の本質とは何か—「脳死＝人の死」から「尊厳死」へ」『世界』794号(2009)、47-53、無。
- ⑪ 小松美彦「爛熟する生権力社会—臓器移植法改定の歴史的意味」『現代思想』38巻3号(2010)、180-197、無。
- ⑫ 大谷いづみ「「尊厳ある死」を望むこと」『福音と世界』2009年5月号(2009)、44-45、無。
- ⑬ 香川知晶「サイボーグ医療と生命倫理」『計測と制御』48巻3号(2009)、280-285、有。
- ⑭ Yoshimura K, Chen C.L, Asakawa D, Hiraoka K, Takeda S., “Direct estimation of droplet volume adhered to the tip of PESI needle,” *Journal of Mass Spectrometry*, 44, 2009, 1469-1477, 有。
- ⑮ 田中智彦「生命倫理の歴史的現在—コント＝スポンヴィル「四つの秩序」論の視座から」『三田学会雑誌』102巻1号(2009)、63-89、有。
- ⑯ 田野尻哲郎・廣野喜幸「脳神経倫理学の語られ方を問い直す—委員会分析による脳神経倫理学の現状評価」『哲学・科学史論叢』12号(2010)、1-26、無。
- ⑰ 大谷いづみ「「安楽な死・尊厳ある死」の位置取りをめぐる」『Pharma Medica』26巻7号(2008)、47-51、無。
- ⑱ 香川知晶「バイオエシックスのバルカン化批判とニューロエシックス」『現代思想』36巻7号(2008)、69-79、無。
- ⑲ 土井健司「フィランスロピアとキリスト教批判の諸相」『宗教研究』357号(2008)、205-225、有。
- ⑳ 森本直子「代理出産の法整備—禁止・処罰・

規制の先にみえるもの」『周産期医学』38巻4号(2008)、483-488、無。

[学会発表](計43件)

- ① 小松美彦「和田移植の知られざる一面—麻酔科医小川秀道を通じた当時の生命倫理観」、日本生命倫理学会シンポジウム、2010年11月20日、藤田保健衛生大学(豊明市)。
- ② 竹田扇「Integrated Scienceとしてのバイオエシックス—本邦のバイオエシックス草創期における今堀和友の役割」、日本生命倫理学会シンポジウム、2010年11月20日、藤田保健衛生大学(豊明市)。
- ③ 瓜田一寿「仏教者のバイオエシックスへの関わり—信楽峻磨の動向から」、日本生命倫理学会シンポジウム、2010年11月20日、藤田保健衛生大学(豊明市)。
- ④ 大谷いづみ「生活のなかの死—地域社会での看取りを考える」、日本医学哲学・倫理学会シンポジウム、2010年10月16日、岩手医科大学(盛岡市)。
- ⑤ Soichiro Toda, Chiaki Kagawa, “Japan-specific diagnostic criteria of disorders of consciousness can contribute to improvements of the clinical practices,” 日本神経科学会、2010年9月2日、神戸コンベンションセンター(神戸市)。
- ⑥ Ryuki HANAOKA, Akashi TANAKA and Yoshiyuki HIRONO, “IVF regulation and Bioethical thoughts in 1970s-80s in the United States and Japan,” Society for Social Studied of Science, 2010年8月28日、東京大学(東京都)。
- ⑦ 土井健司「アメリカにおける脳死・臓器移植とキリスト教」、宗教と社会学会、2010年6月6日、立命館大学(京都市)。
- ⑧ 田中智彦「現代における死」への覚書—脳死・臓器移植をめぐる「ノン・パンセ」、日本哲学会シンポジウム、2010年5月15日、大分大学(大分市)。
- ⑨ 小松美彦「西洋医学思想における死生観の展開—歴史研究と現代批判の視座」、日本科学史学会生物学史研究会、2010年4月17日、東京大学(東京都)。
- ⑩ 竹田扇「中枢神経に於ける一次線毛の多様な機能とその病態」、日本解剖学会、2010年3月29日、盛岡市。
- ⑪ 田中智彦「世俗化と近代—チャールズ・テイラーが見るキリスト教世界」、日本ヘーゲル学会、2009年12月19日、一橋大学(東京都)。
- ⑫ 廣野喜幸「第三者配偶子による生殖補助医療の生命倫理」、日本生殖医学会、2009年11月22日、金沢市。
- ⑬ 小松美彦「死生観の歴史的現在—バイオエシックスで置き去りにされた視座」、日本生命倫理学会シンポジウム、2009年11月15日、東洋英和女学院大学(横浜市)。

- ⑭ 大谷いづみ「J.フレッチャーとバイオエシックスの交錯—フレッチャーのanti-dysthanasia概念」、日本生命倫理学会シンポジウム、2009年11月15日、東洋英和女学院大学(横浜市)。
- ⑮ 香川知晶「発展か、拡散か？—バイオエシックスのバルカン化論争をめぐる」、日本生命倫理学会シンポジウム、2009年11月15日、東洋英和女学院大学(横浜市)。
- ⑯ 土井健司「自死問題のキリスト教」、日本生命倫理学会シンポジウム、2009年11月14日、東洋英和女学院大学(横浜市)。
- ⑰ Keishi NARITA, Toyoko KAWATE, Sen TAKEDA, “Primary cilia acts as biosensors to regulate production of cerebrospinal fluid,” American Society for Cell Biology, 2008年12月17日, San Francisco (USA).
- ⑱ 廣野喜幸「生命倫理と医療倫理との統合の挫折」、日本生命倫理学会シンポジウム、2008年11月30日、九州大学(福岡市)。
- ⑲ 香川知晶「医療崩壊とグローバリゼーション」、日本倫理学会ワークショップ、2008年10月3日、筑波大学(つくば市)。
- ⑳ 土井健司「古代キリスト教と人間愛(フィレンスロピア)—四世紀カッパドキア教父の救貧思想への序」、日本宗教学会、2008年9月15日、筑波大学(つくば市)。
- [図書](計38件)
- ① 小松美彦「はじめに」、「知っておきたい、考えたい、脳死・臓器移植13のこと」(第4節-第8節)小松美彦・市野川容孝・田中智彦編『いのちの選択—今、考えたい脳死・臓器移植』(岩波ブックレット、2010)、2-3頁、14-30頁、総頁75。
- ② 大谷いづみ「自分らしく、人間らしく死にたい？—安楽死・尊厳死、「あとがき」玉井真理子・大谷いづみ編『はじめて出会う生命倫理』(有斐閣、2011)、187-208頁、313-315頁、総頁312。
- ③ 香川知晶「知っておきたい、考えたい、脳死・臓器移植13のこと」(第1節-第3節)小松美彦・市野川容孝・田中智彦編『いのちの選択—今、考えたい脳死・臓器移植』(岩波ブックレット、2010)、4-14頁、総頁75。
- ④ 竹田扇「神経細胞の細胞骨格」神庭重信・加藤忠文編『精神科医のための脳科学—これだけは知っておきたい基礎知識』(中山書店、2010)、169-170頁、総頁315。
- ⑤ 田中智彦「生命倫理と人権」市野川容孝編『人権の再問』(法律文化社、2011)、177-196頁、総頁224。
- ⑥ 瓜田一寿「死を見据えて生きてこそ見える「いのち」の実相」小松美彦・市野川容孝・田中智彦編『いのちの選択—今、考えたい脳死・臓器移植』(岩波ブックレット、2010)、71頁、総頁75。
- ⑦ 土井健司「「愛」を問いなおし、そして脳死となる人のいのちを大事にしよう」小松美彦・市野川容孝・田中智彦編『いのちの選択—今、考えたい脳死・臓器移植』(岩波ブックレット、2010)、72頁、総頁75。
- ⑧ 小松美彦「西洋医学思想における死生観の展開」飯田隆ほか編『岩波講座哲学第八巻 環境／生命』(岩波書店、2009)、17-40頁、総頁280。
- ⑨ 小松美彦「メタバイオエシックスの構築に向けて」、「あとがき」小松美彦・香川知晶編著『メタバイオエシックスの構築—生命倫理を問いなおす』(NTT出版、2010)、3-38頁、259-263頁、総頁279。
- ⑩ 大谷いづみ「「尊厳死」思想の淵源—J.フレッチャーのanti-dysthanasia概念とバイオエシックスの交錯」小松美彦・香川知晶編著『メタバイオエシックスの構築—生命倫理を問いなおす』(NTT出版、2010)、207-233頁、総頁279。
- ⑪ 香川知晶「まえがき」、「バイオエシックスにおける原則主義の帰趨」小松美彦・香川知晶編著『メタバイオエシックスの構築—生命倫理を問いなおす』(NTT出版、2010)、i-iv頁、163-183頁、総頁279。
- ⑫ 田中智彦「生命倫理に問う—忘れてはならないことのために」小松美彦・香川知晶編著『メタバイオエシックスの構築—生命倫理を問いなおす』(NTT出版、2010)、235-257頁、総頁279。
- ⑬ 土井健司「忘却されし者へ眼差しを—バイオエシックス・人間愛・キリスト教」小松美彦・香川知晶編著『メタバイオエシックスの構築—生命倫理を問いなおす』(NTT出版、2010)、185-205頁、総頁279。
- ⑭ 廣野喜幸「医の倫理からバイオエシックスへの転回」小松美彦・香川知晶編著『メタバイオエシックスの構築—生命倫理を問いなおす』(NTT出版、2010)、137-162頁、総頁279。
- ⑮ 森本直子「ウォーレン・T・ライク(Warren T. Reich)講演 バイオエシックスの歴史—文化的背景からのアプローチ」小松美彦・香川知晶編著『メタバイオエシックスの構築—生命倫理を問いなおす』(NTT出版、2010)、109-134頁、総頁279。
- ⑯ 小松美彦「日本語版はしがき」、「「人体革命」の時代を考える—「人間の尊厳」概念と「自己決定権」に対する批判的視座」W.ラフルーア・G.ペーメ・島菌進編著『悪夢の医療史—人体実験・軍事技術・先端生命科学』(勁草書房、2008)、i-v頁、233-273頁、総頁359。
- ⑰ 大谷いづみ「生権力と死をめぐる言説」島菌進ほか編『死生学1 死生学とは何か』(東京大学出版会、2008)、53-73頁、総頁257。
- ⑱ 香川知晶「「応用倫理学」とモンスターの哲学—脳神経倫理学の可能性」信原幸弘・原塑

編著『脳神経倫理学の展望』(勁草書房、2008)、15-38頁、総頁368。

- ①9 田中智彦「生命と身体」飯島昇藏ほか編著『現代政治理論』(おうふう、2009)、121-141頁、総頁318。
- ②0 藤垣裕子・廣野喜幸「日本における科学コミュニケーションの歴史」、廣野喜幸「科学コミュニケーション」、「伝えることのモデル」、「科学教育」藤垣裕子・廣野喜幸編著『科学コミュニケーション論』(東京大学出版会、2008)、39-61頁、65-91頁、125-141頁、203-238頁、総頁299。

[その他]

ホームページ等

<http://www2.kaiyodai.ac.jp/~yoshik/index.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

小松 美彦(KOMATSU YOSHIHIKO)

東京海洋大学・海洋科学部・教授

研究者番号:90263239

(2)研究分担者

大谷 いづみ(OTANI IZUMI)

立命館大学・産業社会学部・教授

研究者番号:30454507

香川 知晶(KAGAWA CHIAKI)

山梨大学大学院・医学工学総合研究部・教授

研究者番号:70224342

竹田 扇(TAKEDA SEN)

山梨大学大学院・医学工学総合研究部・教授

研究者番号:20272429

田中 智彦(TANAKA TOMOHIKO)

東京医科歯科大学・教養部・准教授

研究者番号:30288039

土井 健司(DOI KENJI)

関西学院大学・神学部・教授

研究者番号:70242998

廣野 喜幸(HIRONO YOSHIYUKI)

東京大学大学院・総合文化研究科・准教授

研究者番号:90302819

(3)連携研究者

爪田 一寿(TSUMEDA KAZUHISA)

武蔵野大学・人間関係学部・専任講師

研究者番号:20469266

森本 直子(MORIMOTO NAOKO)

東京医科歯科大学・教養部・非常勤講師

研究者番号:40350425

(4)研究協力者

天野 陽子(AMANO YOKO)

東京海洋大学大学院・海洋科学技術研究科・博士前期課程

田中 丹史(TANAKA AKASHI)

東京大学大学院・総合文化研究科・特任研究員

研究者番号:70589043

花岡 龍毅(HANAOKA RYUKI)

鎌倉女子大学・児童学部・非常勤講師

研究者番号:70362530

的射場 瑞樹(MATOIBA MIZUKI)

東京海洋大学・海洋科学部・非常勤講師

皆吉 淳平(MINAYOSHI JUNPEI)

慶應義塾大学・文学部・非常勤講師